

サントリー食品インターナショナルのサステナビリティマネジメント

考え方・方針

サントリー食品インターナショナルが目指すサステナビリティ経営

サントリー食品インターナショナル株式会社（以下、「当社」とよびます。）を含むサントリーグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた総合酒類食品企業として、人々の生活を潤い豊かにすることと自然環境を守り育てることが共存し、人と自然が互いに良い影響を与えあって永く持続していく社会を目指します。「人と自然が響きあう」社会を実現するために、私たちは自然への尊敬と感謝を忘れず、水をはじめとする自然の生態系が健全に循環するためのさまざまな活動に取り組んでいます。そして、商品・サービスを通して全ての人に人間らしい生活文化を提供することに加えて、バリューチェーン上の全てのプロセスにおいて、私たち自身の事業成長が持続可能な社会の実現に貢献できるよう努めています。

サントリーグループの企業理念

社はや創業精神をもとに、わたしたちの目的、価値観で構成。
会社がめざすこと、それを実践する上で大切にしたい考え方を示すもの

わたしたちの目的 Our Purpose サントリーグループが事業を営む目的、企業としてめざす方向性

人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、
いのち
「人間の生命の輝き」をめざす。

わたしたちの価値観 Our Values 目的を実現するために、すべての社員が大切にすべき価値観

Growing for Good

人として、企業として、社会のために成長し続けること。
成長し続けることで、社会を良くする力を大きくしていくこと。

やってみなはれ

失敗を恐れることなく、新しい価値の創造をめざし、
あきらめずに挑み続けること。

利益三分主義

事業活動で得たものは、自社への再投資にとどまらず、
お客様へのサービス、社会に還元すること。

コーポレートメッセージ 企業理念を凝縮し、お客様や社会とコミュニケーションするための言葉

水と生きる **SUNTORY**

自然と水の恵みに生かされる企業として、貴重な水資源を守ること。さまざまな企業活動を通じて社会に潤いをもたらし、社会にとっての水であること。社員一人ひとりが水のように自在にしなやかに挑戦できる会社であること。「人間の生命の輝き」をめざす想いを、「水」に託して伝えるメッセージです。

このような当社グループのサステナビリティへの考え方と、我々が貢献していく7つのサステナビリティのテーマを示したものが「サントリー食品インターナショナルグループ サステナビリティビジョン」です。「NATURE(自然)とPEOPLE(人)は、相互依存関係があることを意識し、双方が「響きあう」社会の実現を目指してステークホルダーの皆様と共に活動を行っています。

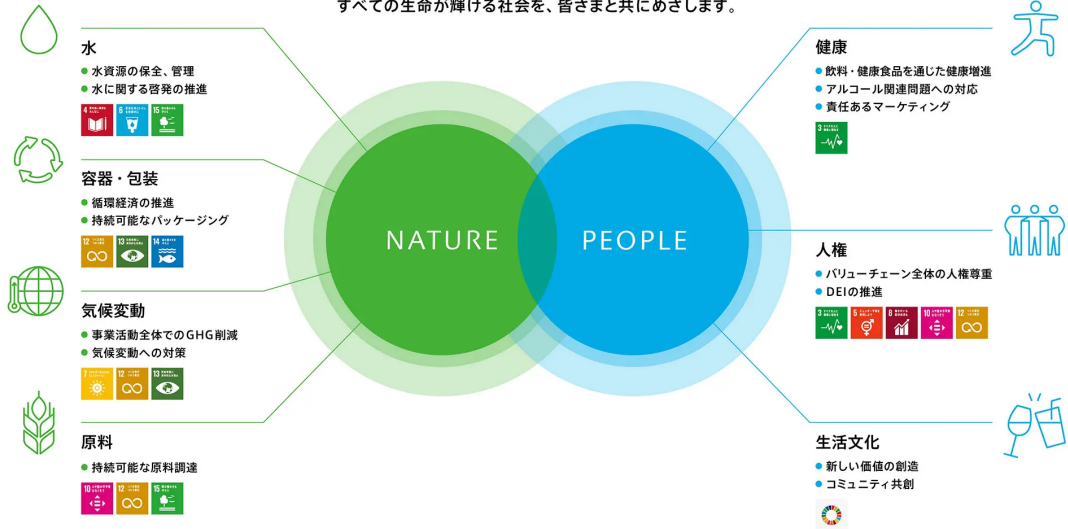
いま世界は、気候変動に伴う水不足や生物多様性等の問題、廃棄物による環境汚染、貧困や人権侵害など、多岐にわたる環境・社会課題に直面しています。「持続可能な開発目標 (SDGs) ※」という世界共通の目標の実現に向けて企業の積極的な取り組みが期待されるなか、グローバルに事業を展開する私たちサントリー食品インターナショナルグループも、世界の課題にこれまで以上に真摯に向きあい、持続可能な社会の実現に向けて挑戦を続けます。

※「SDGs」=2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに全世界が取り組むべき目標 (Sustainable Development Goals)

サントリー食品インターナショナルグループ サステナビリティビジョン

人と自然と響きあう社会の実現へ

サントリー食品インターナショナルグループは、水や農作物など自然の恵みに支えられた飲料食品企業として、自然環境を守り育むことと、人々の生活を潤い豊かにすることが共存し、すべての生命が輝ける社会を、皆さまと共にめざします。

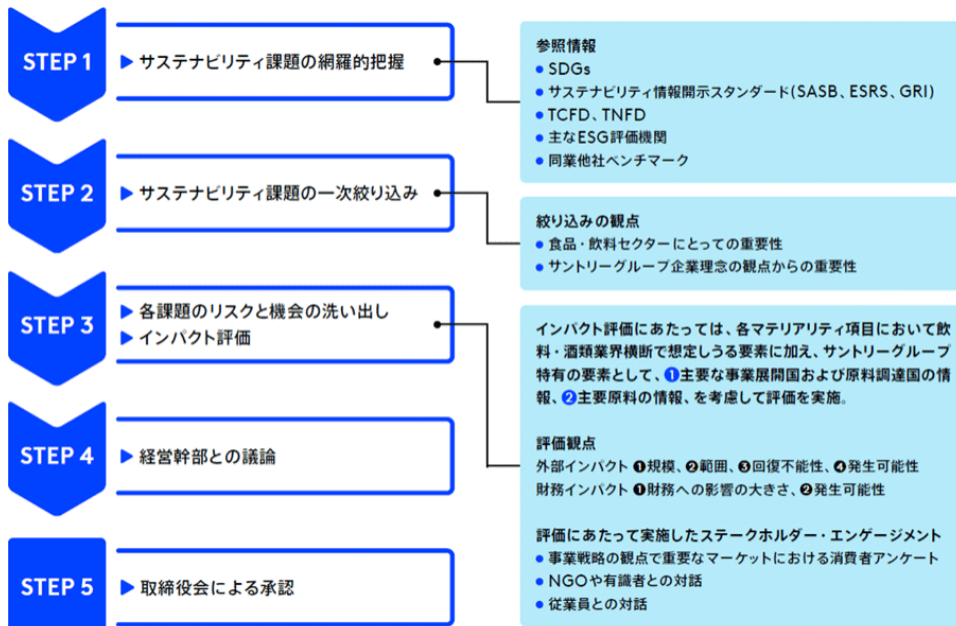


サントリー食品インターナショナルグループのサステナビリティ重要課題（マテリアリティ）

当社グループは中長期的なマクロ環境の変化を踏まえたサステナビリティ経営を推進していくため、当社グループにとっての重要課題（マテリアリティ）を特定し、サステナビリティ戦略へと反映しています。

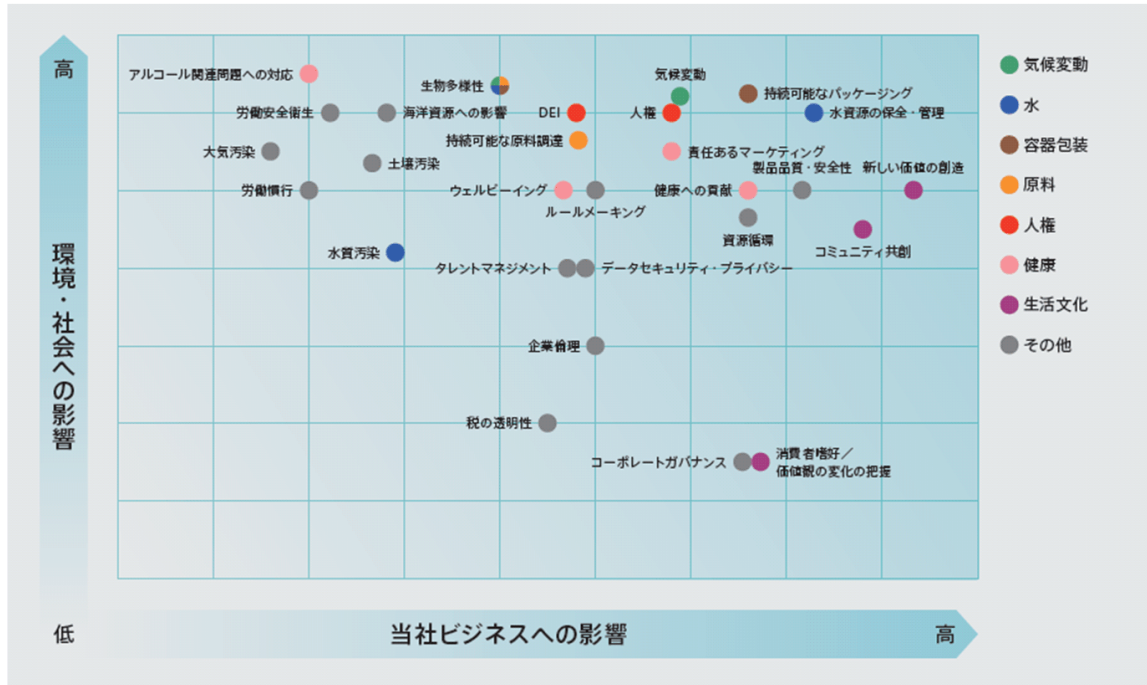
2023年、当社グループは、2017年に実施したマテリアリティ分析の結果の見直しを行いました。今回行ったマテリアリティ分析では、ダブルマテリアリティの概念のもと、自社の財務へのインパクトおよび環境・社会への外部インパクトの特定・評価を実施しました。「サントリー食品インターナショナルグループ サステナビリティビジョン」の7つのテーマは、今回マテリアリティとして特定された課題を整理した内容です。また、マテリアリティおよび「サントリー食品インターナショナルグループ サステナビリティビジョン」は、取締役会での議論を経て承認されました。

重要課題（マテリアリティ）の特定プロセス



マテリアリティ・マトリックス

上記プロセスを経て、特定した当社グループのサステナビリティの重要課題を整理した内容が、「サントリー食品インターナショナルグループ サステナビリティビジョン」の7つのテーマです。

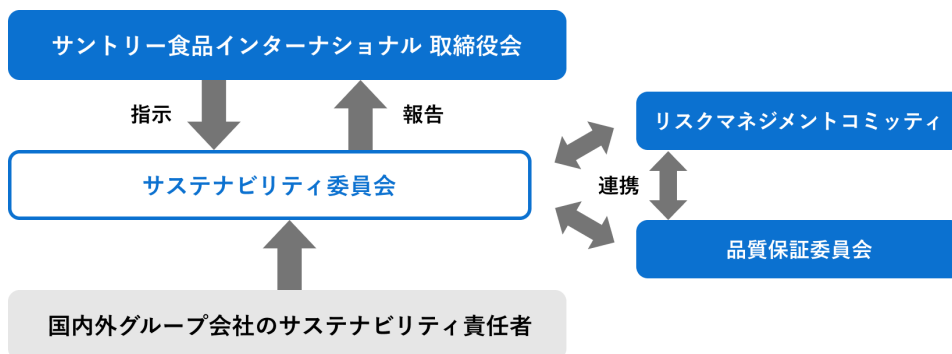


推進体制

サントリー食品インターナショナルの推進体制

当社は、「サステナビリティ委員会」を中心に、取締役会と連携しながらグローバルでの活動を推進し、サステナビリティ・ビジョンに基づいた戦略の立案や各案件の進捗共有などのモニタリングを行います。

サントリー食品インターナショナルの推進体制



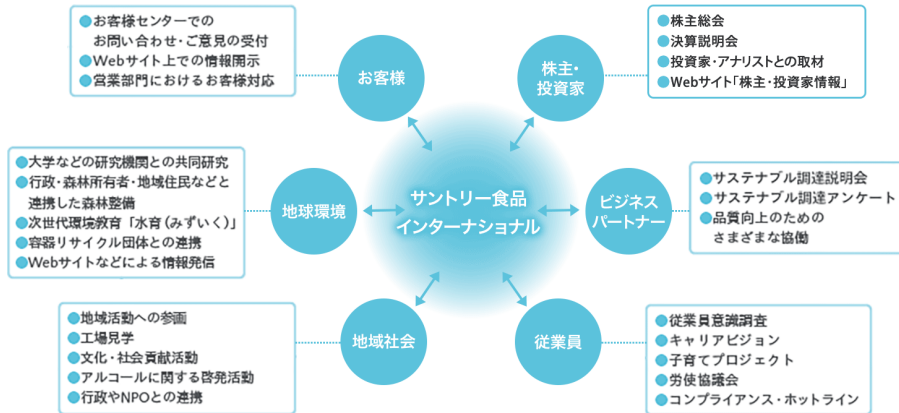
取り組み

テーマ	課題	コミットメント	サントリー食品インターナショナルの取り組み
 水	<ul style="list-style-type: none"> ● 水資源の保全・管理 ● 生物多様性 ● 水質汚染 	サントリーグループ『水理念』に掲げる水循環への理解、節水・再利用・浄化、水資源保全、地域社会との共生等の活動を、グループ全体で推進し、外部ステークホルダーと連携しながら水のサステナビリティの実現に努めます。	>水資源
 CO₂	<ul style="list-style-type: none"> ● 気候変動 ● 生物多様性 	脱炭素社会の実現を目指して、自社施設や設備およびバリューチェーンの両面において、最新の省エネ技術の積極導入や再生可能エネルギーの活用等を通じてGHG排出の削減に努めます。	>気候変動
 原料	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能な原料調達 ● 生物多様性 	当社製品に不可欠な自然の恵みである農作物やその他原料について、サプライチェーンにおけるビジネスパートナーと協力し、主要原料における社会・環境課題を特定した上でサステナビリティを実現するための取り組みを通じてともに成長し、豊かな地域社会の実現に貢献します。	>サステナブル調達
 容器・包装	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続可能なパッケージング ● 生物多様性 	主要な容器・包装材について、商品設計から輸送、消費後のリサイクルまで、商品のライフサイクル全体での環境配慮を実践し、循環経済の実現に努めます。	>資源循環
 健康	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康への貢献 ● 責任あるマーケティング ● ウェルビーイング ● アルコール問題への対応 	サントリーグループは、お客様の信頼と期待に応えることを目指す企業として、お客様の心身ともに健やかで喜びに満ちた生活に貢献します。 飲料、健康食品、酒類などの幅広い事業活動を通じて、商品やサービスを提供するとともに、価値創出のためのイノベーションの推進によって、お客様のライフステージに応じた、潤いのある豊かな生活をサポートします。	>健康への取り組み
 人権	<ul style="list-style-type: none"> ● 人権 ● DEI 	グループ従業員 労働安全の徹底はもとより、健康経営の推進、長期的視野での成長機会の提供により、健康で幸せに満ちた生活の実現をサポートします。人間性を尊重し、ハラスメント等を防止するとともに、人種、宗教、性別、性的指向、年齢、国籍、言語、障がい等の多様性を認め（ダイバーシティ）、一人ひとりが異なる存在として受け入れられ、全体を構成する大切な一人としてその違いが活かされること（インクルージョン）を推進し、誰もが働きやすく、「やってみなはれ」精神溢れる就労環境づくりを推進します。 バリューチェーン バリューチェーンに関わる全ての人の幸せに貢献するために、当社の事業による人権への影響を精査・理解した上で、ビジネスパートナーを含めた外部ステークホルダーと積極的に連携し、人権尊重の取り組みを推進していきます。	>人権の尊重
 生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい価値の創造 ● コミュニティ共創 ● 消費者嗜好/価値観の変化の把握 	人々の心と身体を潤し、生活文化を豊かにする商品やサービスを提供するとともに、イノベーションを促進して新たな価値を創造し、あらゆる人が人間らしく心豊かに暮らせる社会づくりに貢献します。創業精神「利益三分主義」に基づき、時代の社会課題に真摯に向きあい、社会福祉、芸術・文化・学術、スポーツ、次世代育成をはじめとする貢献活動に取り組みます。事業を展開する地域において、地域社会との対話を大切にし、課題の解決や生活文化の充実に貢献するよう努めます。	>地域・コミュニティ

ステークホルダーとの関わり

サントリー食品インターナショナルの事業活動は、多様なステークホルダーとの関わりの中で進められています。持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるために、私たちはステークホルダーへの責任を明らかにするとともに、さまざまなコミュニケーションを実施。いただいたご意見や社会のニーズを企業活動に反映し、高い信頼関係や協働関係を継続的に築いていくことを目指しています。

ステークホルダーとのコミュニケーションの機会



ステークホルダーとのコミュニケーションの機会

環境マネジメント

考え方・方針

環境活動の基本的な考え方

お客様に水と自然の恵みをお届けする一方で、美しく清らかな水を生態系とともに守り、大切に使い、良質の水を自然に還すことは、水とともに生きる企業として、重大な責任であると考えています。その水で育まれる植物や森林、川・海・大気、そして生き物が作り出す生態系という循環システムは、あらゆる生命の基礎です。サントリーグループは、地球環境そのものが大切な経営基盤と認識しています。

サントリー食品インターナショナル（以下、「当社」といいます。）は、サントリーグループの一員として、豊かで持続可能な社会を構築するため、自然環境の保全・再生と環境負荷の低減への取り組みに最大限の努力を続けていきます。

■サントリーグループ環境基本方針

当社では、「水のサステナビリティ」「生態系の保全と再生」「循環経済の推進」「脱炭素社会への移行」など、重点課題が明確に見える方針を定めています（1997年制定、2022年改定）。また、社会とのコミュニケーションを大切にし、ステークホルダーとともに持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

サントリーグループ環境基本方針

サントリーグループは、環境経営を事業活動の基軸にし、バリューチェーン全体を視野に入れて、生命の輝きに満ちた持続可能な社会を次の世代に引き継ぐことを約束します。

1. 水のサステナビリティの追求

水は、私たちのビジネスにとって最も重要な資源です。サントリーは、自然界における水の健全な循環に貢献するため、事業活動において最も重要な資源である水を大切に取り扱い、使用する量以上の水を地域で育むことに努めます。

2. 多様で豊かな生態系の保全と再生

水や農作物に依存する企業として、その価値の源泉である水源や原料産地などの生態系を守るため、水源涵養活動や持続可能な農業への移行を通じて、生物多様性の保全と再生に努めます。

3. 循環経済の推進

限りある資源を有効活用するため、原材料などの3R（reduce, reuse, recycle）の推進、再生可能資源の利用、効率的な循環システムの構築を多様なステークホルダーと協働し、商品ライフサイクル全体での環境負荷の低減に努めます。

4. 脱炭素社会への移行

気候変動の要因である温室効果ガスの排出を実質ゼロにするため、バリューチェーン全体での排出量の削減に努めます。

5. 社会とのコミュニケーション

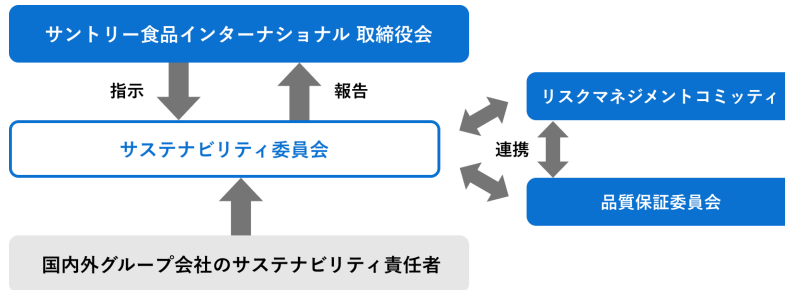
豊かな地球環境を未来に引き継ぐため、ステークホルダーと共に持続可能な社会の実現に取組み、地域社会との対話を深めるとともに、積極的な情報開示に努めます。

推進体制

環境マネジメント体制

水、気候変動、原料、容器・包装、健康、人権、生活文化のサステナビリティに関する7つのテーマに対して、取締役会の諮問委員会であるサステナビリティ委員会で、サステナビリティ経営推進のための戦略立案や取り組みの推進、進捗確認を行っています。サステナビリティ担当役員の監督のもと、サステナビリティ経営に関わる上記7つの重要テーマをサステナビリティ委員会で議論し、環境や社会課題に関わる戦略や取り組みの進捗、および事業のリスクや成長機会は、年に2回取締役会に報告を行っています。また、取締役会では、外部有識者を招いて勉強会を実施するなど、サステナビリティ経営に対するアドバイスを受ける機会を設けています。

サントリー食品インターナショナルの推進体制



目標と進捗

「環境ビジョン2050」・「環境目標2030」

当社を含むサントリーグループは、サステナビリティ経営により明確な方向性を与えるため、「環境ビジョン2050」および「環境目標2030」を策定しています。世界が抱えるさまざまな課題にこれまで以上に真摯に向きあい、持続可能な社会の実現に向けて挑戦を続けるべく、2021年4月に「環境目標2030」の温室効果ガス（GHG）削減目標を改定し、2021年12月には、水の目標を改定しました。

環境ビジョン 2050



水のサステナビリティ

- 全世界の自社工場^{※1}での水使用を半減^{※2}
- 全世界の自社工場^{※1}で取水する量以上の水を育むための水源や生態系を保全
- 主要な原料農作物における持続可能な水使用を実現
- 主要な事業展開国において「水理念」を広く社会と共有



気候変動対策

- バリューチェーン全体で、温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す
- 省エネルギー活動の推進、再生可能エネルギーの積極的な導入、次世代インフラの利活用およびバリューチェーンのステークホルダーとの協働を通じ脱炭素社会の実現に向けて取り組む



環境目標 2030



工場節水

自社工場^{※3}の水使用量の原単位をグローバルで20%削減^{※2}。
特に水ストレスの高い地域においては、水課題の実態を評価し、水総使用量の削減の必要性を検証。



水源涵養

自社工場^{※3}の半数以上で、水源涵養活動により使用する水の100%以上をそれぞれの水源に還元。特に水ストレスの高い地域においてはすべての工場上記の取り組みを実施。



原料生産

水ストレスの高い地域における水消費量の多い重要原料^{※4}を特定し、その生産における水使用効率の改善をサプライヤーと協働で推進。



水の啓発

水に関する啓発プログラムに加えて、安全な水の提供にも取り組み、合わせて100万人^{※5}以上に展開。

- ※1 製品を製造するサントリーグループの工場
- ※2 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減
- ※3 製品を製造するサントリー食品インターナショナルの工場
- ※4 コーヒー等
- ※5 目標の100万人はサントリーグループの目標
- ※6 サントリー食品インターナショナルの拠点
- ※7 2019年の排出量を基準とする

温室効果ガス (GHG)

- 自社拠点^{※6}でのGHG排出量を50%削減^{※7}
- バリューチェーン全体におけるGHG排出量を30%削減^{※7}



2023年 実績



水のサステナビリティ

工場節水

自社工場^{※1}の水使用量原単位15年比21%削減

水源涵養

全世界の自社工場全体での32%で水源涵養活動を実施
水ストレスの高い地域にある工場においては、その33%で活動を実施

原料生産

Sedexを通した一次サプライヤーの水マネジメントに関する情報を把握

水の啓発

次世代環境教育「水育」などの
水啓発プログラム: 71万人
安全な水の提供: 36万人
累計107万人に展開^{※2}



気候変動対策

温室効果ガス (GHG)

- 自社拠点^{※3}でのGHG排出量
基準年比22%削減^{※4}
- バリューチェーン全体におけるGHG排出量
基準年比14%削減^{※4}

- ※1 製品を製造するサントリー食品インターナショナルの工場
- ※2 累計の107万人はサントリーグループの人数
- ※3 サントリー食品インターナショナルの拠点
- ※4 2019年の排出量を基準とする

取り組み

商品のライフサイクル全体で環境負荷低減

当社では、多岐にわたる事業活動を通じてさまざまな副産物や廃棄物を排出しています。一つの商品が企画・開発されて、廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通じて、環境に与える影響を定量的に把握し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

また、海外における事業拡大に伴い、グローバルでの環境負荷を捕捉するため、海外生産拠点の環境負荷の把握などを進めています。サプライチェーン全体での環境負荷低減のため、取引を行っているサプライヤーにも積極的にコミュニケーションを図り、環境負荷にかかわる適切な報告と削減に向けた取り組みの実施を推奨しています。



環境関連法規の遵守

当社の各工場では環境関連法規（日本の場合は温対法や省エネ法等）の遵守はもとより、排水処理やボイラー設備等の環境設備に関しても法規制と同等、もしくはより厳しい自主基準値を設定して、環境管理に努めています。サントリー食品インターナショナルは、2023年、環境に関する重大な事故、訴訟はありませんでした。

TCFD提言に基づく開示

サントリー食品インターナショナル（以下、「当社」といいます。）を含むサントリーグループでは、持続的に事業を行い、価値を創造し続けていくために、気候変動によるリスクや事業への影響を特定し、適切に対応していく必要があると考えています。金融安定理事会（FSB）により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同を2019年5月に表明し、毎年TCFD提言に基づく開示を行っています。

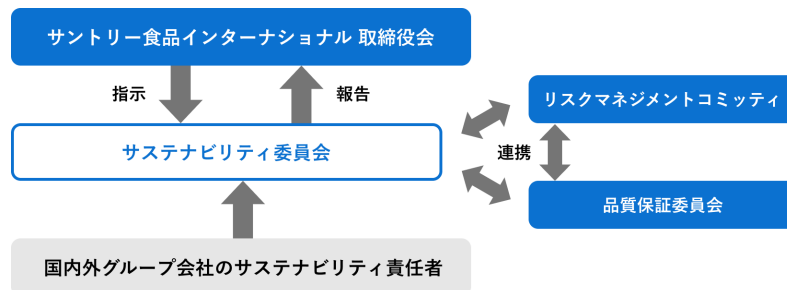


2022年からは、気候変動問題が社会と企業に与えるリスクと機会の評価・特定に加えて、事業に対する影響額の試算を新たに開始しました。今後も、顕在化したリスク・機会に対する対応策を戦略に反映させることでレジリエンス向上を目指すとともに、情報開示の拡充を進めていきます。

1. ガバナンス

当社では、リスクマネジメントコミッティとサステナビリティ委員会が常に連携をとっており、重要な意思決定事項については、取締役会でさらなる議論を行い、審議・決議を行います。環境社会課題に関わる戦略の進捗や事業のリスクと成長機会は、適宜取締役会に報告を行っています。また、取締役会では、外部の専門家を講師とした研修、生産研究開発施設等における取締役会の開催や意見交換等を実施することで、サステナビリティに関する知見を深める機会を設けています。

サントリー食品インターナショナルの推進体制



2. 戦略

当社では、気候変動関連の課題について重要度に基づいたリスクの評価を行っています。事業への影響が大きいと想定されるリスクについては、中長期目標を定め取り組みを進めています。

リスク抽出・評価のアプローチは、抽出されたリスクに対し、「リスクエクスポージャー」および「対策レベル」の二軸で評価し、特にグループ全体の重要リスクについて、Tier1～3に区分し、うちTier1を最重要リスク、Tier2を重要リスクと位置付けています。「リスクエクスポージャー」は「発生可能性（確率）×影響度（インパクト）」によって、「対策レベル」は対策の準備の度合いによって算出されます。評価の結果、気候変動関連リスクは最重要リスクの一つとして位置付けています。

また、消費者・投資家をはじめとする全てのステークホルダーによる企業のGHG排出に対する関心の高まりを背景に、気候変動関連に伴うリスクと機会が自社の事業戦略に大きな影響を及ぼすとの認識の下、シナリオ分析に取り組み、気候変動が事業に与えるリスクや機会の把握および対応策の実施に努め、財務計画において考慮しています。

リスクと機会（リスク・機会の特定、事業に対する影響額を試算）

当社では重要な財務的影響を与えるリスクおよび機会を特定するため、短期（0～3年）・中期（3～10年）・長期（10～30年）という時間軸における各項目のインパクトや発生頻度を踏まえ、社内で評価して下記表のように結果を整理しました。特定したリスク・機会の中でも炭素税の導入によるコスト増加、生産拠点への水の供給不足による機会損失、農産物原料の収量減少による原料価格高騰の3点が特に大きな影響を及ぼす可能性があることを認識し、事業に対する影響額を試算しました。

リスク・機会分析の前提となるシナリオは温暖化進行シナリオとしてRCP 8.5（4°Cシナリオ）、脱炭素シナリオとしてIEA NZE 2050等を使用しました。

1.主要なリスク・機会の抽出			2.各リスク・機会の事業への影響を評価 (最重要リスクは事業に対する 影響額を試算)	3.対応策の検討/実施
リスク・機会の種類・分類			想定される事業への影響	リスク軽減・機会取り込みへの対応策
移行 リスク	新たな 規制	カーボン プライシング 導入による 生産コスト増	<ul style="list-style-type: none"> 炭素税の導入や税率の引き上げによる財務上の負担増 事業に対する試算影響額 95億円 (2030年)、180億円 (2050年) (※1) 	<ul style="list-style-type: none"> 内部炭素価格を導入し、投資意思決定の際に考慮 2030年までに脱炭素を促進する投資（再生可能エネルギーへの転換・ヒートポンプの活用など）を実施予定 「サントリー環境目標2030」「サントリー環境ビジョン2050」で設定した目標を達成した場合には、47.5億円（2030年）、180億円（2050年）の削減効果
		物理的 リスク	慢性 リスク	生産拠点への水供給不足による操業影響
急性 リスク	大型台風やゲリラ豪雨を要因とした洪水等の発生		<ul style="list-style-type: none"> 現状と同品質の原料調達のためのコスト上昇 事業に対する試算影響額 51億円 (RCP 8.5シナリオ、2050年)（本文「原料安定調達」に詳細を記述） 	<ul style="list-style-type: none"> 原料産地別に気候変動による将来収量予測などの影響評価を行い、原料の安定調達のための戦略を策定 持続可能な農業に向けたパイロットの開始（本文「原料安定調達」に詳細を記述）
機会	商品/ サービス		気温上昇に伴う健康への影響	<ul style="list-style-type: none"> 平均気温の上昇や猛暑等により、熱中症対策飲料や水飲料へのニーズが高まる
		環境意識の高まりによる顧客行動の変化	<ul style="list-style-type: none"> 水資源を大切にすることを社会に認知されることによるブランド価値の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 科学的データに基づく水源涵養活動、工場での節水・水質管理の取り組み、水に関する啓発プログラム「水育」などを継続・強化するとともに、社外に情報発信
	資源 効率	新技術導入によるコスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 新技術開発による石油資源の使用量とCO₂排出量の削減 ワンウェイプラスチック関連課税に対するコスト削減 	<ul style="list-style-type: none"> PETプリフォーム製造プロセスの効率化を目的とした新たな技術開発（「FtoPダイレクトリサイクル技術」など） 効率的な使用済みプラスチックの再資源化技術開発（株式会社アールプラスジャパン）

※1 2019年の自社排出量（Scope1、2）をもとにIEA NZEの予測値から独自に推計した炭素税価格を使用し、試算。

- 2030年 日本、欧州、米州 140ドル/t、APAC 90ドル/t
- 2050年 日本、欧州、米州 250ドル/t、APAC 200ドル/t

※2 水ストレスが高いエリアに立地する全自社工場において、取水制限を想定した場合の利益インパクトを試算。なお、工場所在地の水ストレス評価は、世界資源研究所のAquaduct 3.0と世界自然保護基金（WWF）のWater Risk Filter 6.0を使用。（為替は1ドル＝145円で計算）

リスク・機会分析を受けての取り組み

シナリオを考慮し、顕在化した上記リスク・機会に対して戦略的な対応を行うことで、レジリエンス獲得を目指しています。リスクへの対応としては、主に水の供給リスクの把握や適切な水マネジメントの実行や水源涵養活動など、特に水のサステナビリティへの取り組みを推進してきましたが、原料調達等、他リスクについても検討を進めています。また、GHG削減については、原材料調達から製造・物流・販売・リサイクルに至るまで、バリューチェーン全体でGHG排出量を削減するため、部門ごとに課題を設定して活動しております。一方、機会面では、気候変動関連対策の適応商品として環境省が推奨する成分を配合した熱中症対策飲料のポートフォリオを拡充しています。また、水源涵養活動や水に関する啓発プログラム「水育」などを継続・強化するとともに、サントリーグループの水に対する姿勢をグループ外に情報発信することでブランド価値向上、ひいては売上の増加につながるものと考えております。資源効率性の面では、ペットボトルのリサイクル促進に積極的に取り組んでおります。

水の供給のサステナビリティに関するリスクの評価

水は当社にとってもっとも重要な原料であり、かつ、貴重な共有資源であるため、水に関するリスク評価に基づきグループの事業活動や地域社会、生態系へのインパクトを把握することは持続的な事業成長のために不可欠です。そのような考えにもとづき、当社では、自社工場[※]を対象に水の供給のサステナビリティに関するリスク評価を行いました。

・製品を製造するサントリー食品インターナショナルの工場：国内10工場、海外33工場

> [水リスクの評価の詳細はこちら](#)

原料の安定調達に向けて

当社の製品に不可欠な自然の恵みである農作物やその他原料は、気候変動による平均気温の上昇により、干ばつ、洪水といった異常気象が発生することで、収量の変動、栽培適域の移動など、生産活動に大きな影響を及ぼすと推測されています。また企業活動のグローバル化が進むとともに、サプライチェーンで働く人々の人権への配慮など社会的な課題への適切な対応が求められてきています。

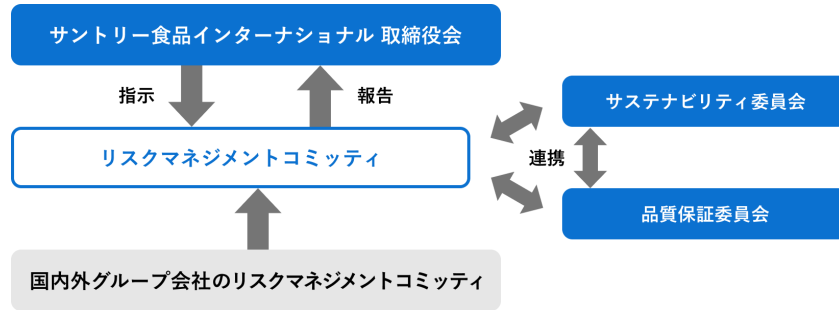
当社では、お客様に高品質な商品・サービスをお届けするため、安全・安心はもとより環境や社会にも配慮するなど、サプライチェーン全体においてサステナビリティを推進していくことが重要だと考えています。そうした考えにもとづき、安全・安心でサステナブルな原料調達を進めるための長期戦略策定と活動推進を実施しています。

> [原料の安定調達に関する詳細はこちら](#)

3. リスク管理

当社では、リスクマネジメントコミッティにおいて、毎年全社を対象にした重要リスクの抽出・評価を行い、当社にとって優先的に取り組むべきリスクを特定し、当社全体でリスクの低減活動を推進しています。これらの活動につきましては、その内容を取締役会において定期的に報告しています。リスク抽出・評価のアプローチおよび特定したリスクの管理方法は、次のとおりです。

サントリー食品インターナショナルの推進体制



リスクと機会（リスク・機会の特定、事業に対する影響額を試算）抽出・評価アプローチ

抽出されたリスクに対し、「リスクエクスポージャー（発生可能性×影響度）」および「対策レベル（対策の準備の度合い）」の二軸で評価し、優先的に取り組むリスクを特定しています。

特定したリスクの管理方法

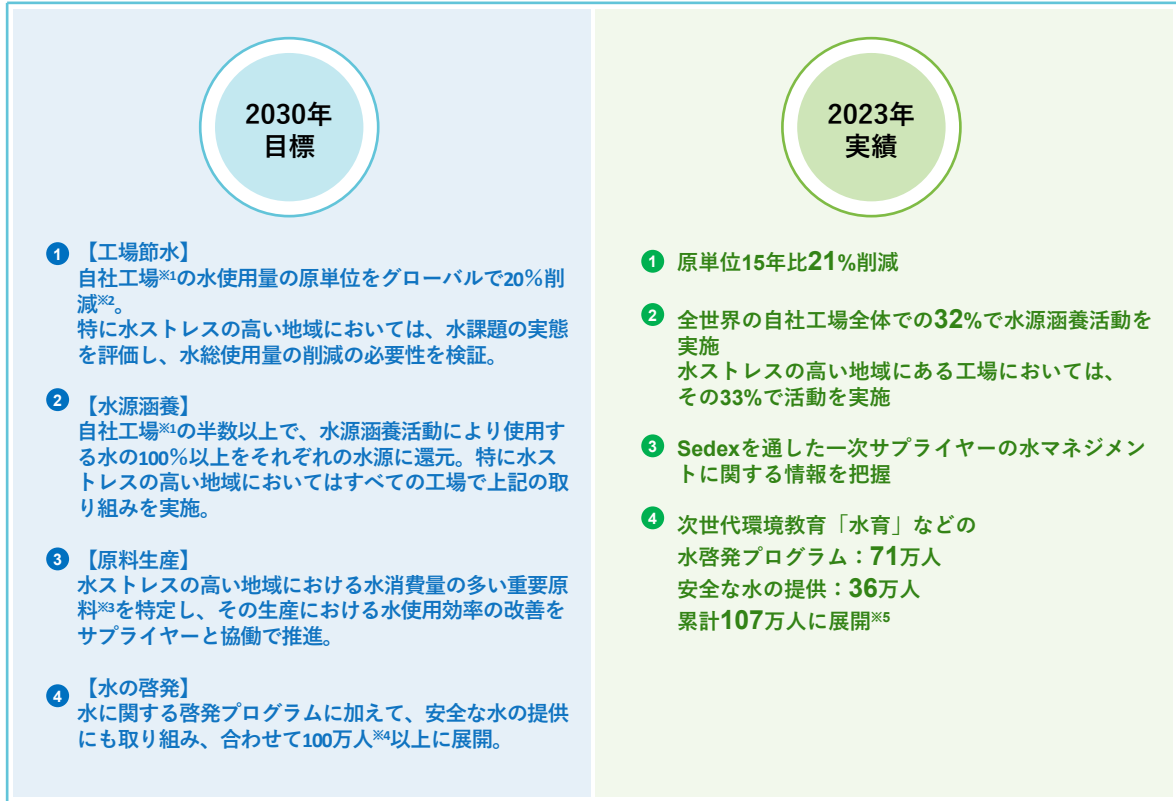
特定したリスク・機会の中でも炭素税の導入によるコスト増加、生産拠点への水の供給不足による売上減少、農産物原料の収量減少による原料価格高騰の3点が特に大きな影響を及ぼす可能性があることを認識しています。

特定した優先的に対応すべきリスクについては、責任者およびモニタリング機関を任命の上、リスクへの対応策を実施します。対応状況はリスクマネジメントコミッティ（RMC）において報告・議論し、抽出・評価・対策・モニタリングのPDCAサイクルを回しています。

データ集

水

■ サントリー食品インターナショナルの目標と実績



※1 製品を製造するサントリー食品インターナショナルの工場

※2 2015年における事業領域を前提とした原単位での削減

※3 コーヒー等

※4 目標の100万人はサントリーグループの人数

※5 累計の107万人はサントリーグループの人数

サントリー食品インターナショナルの水関連データ

	2015年 (基準年)	2021年	2022年	2023年
総取水量 (千m ³)	-	21,776	22,916	22,450★
水原単位 (m ³ /kl)	2.9	2.4	2.3	2.3
排水量 (千m ³)	-	12,443	11,948	11,682★
水消費量 (千m ³)	-	-	10,968	10,768

※ 2023年は国内生産10工場、海外生産38工場を対象

※ KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。第三者保証の対象となっている数値を★で示しています。

■ サントリー食品インターナショナルの取水量（地域別）の推移

エリア	取水量（千m ³ ）					
	2015年 （基準年）	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
日本	10,708	10,628	10,332	10,240	10,786	10,786
米州	1,286	1,273	1,442	1,505	1,541	1,413
欧州	3,861	3,518	3,119	3,315	3,434	3,363
アジア	4,490	7,152	6,362	6,208	6,757	6,466
オセアニア	562	438	444	424	397	422
アフリカ	216	129	89	84	0	0
計	21,122	23,138	21,789	21,776	22,916	22,450★

※ 2023年は国内生産10工場、海外生産38工場が対象

※ KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。

■ サントリー食品インターナショナルの排水量（放流先別）

放流先	排水量（千m ³ ）				
	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
河川・湖沼	7,222	6,767	6,703	6,689	6,757★
海	-	-	-	-	-
下水道	5,785	5,370	5,740	5,259	4,866★
その他（植栽への 散水など）	0	0	0	0	59★
計	13,007	12,136	12,443	11,948	11,682★

※ 2023年は国内生産10工場、海外生産38工場が対象

※ 過年度からの変更点は、2023年に一部拠点で放流先を「下水道」から「河川・湖沼」へ変更

※ KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。

温室効果ガス（GHG）

■ サントリー食品インターナショナルの目標と実績

2030年 目標	2023年 実績
① 自社拠点 ^{※1} でのGHG排出量を 50%削減 ^{※2}	① 自社拠点 ^{※1} でのGHG排出量 基準年比22%削減
② バリューチェーン全体におけるGHG排出量を 30%削減 ^{※2}	② バリューチェーン全体におけるGHG排出量 基準年比14%削減

※1 サントリー食品インターナショナルの拠点

※2 2019年の排出量を基準とする

■ サントリー食品インターナショナルのエリア別スコープ1・2排出量

エリア	スコープ	排出量 (千t)			
		2019年 (基準年)	2021年	2022年	2023年
日本	スコープ1	-	118	116	109
	スコープ2	-	91	24	5
	スコープ1+2	218	209	140	114
米州	スコープ1	-	7	32	32
	スコープ2	-	13	10	0
	スコープ1+2	24	21	43	32
欧州	スコープ1	-	59	50	56
	スコープ2	-	1	0	0
	スコープ1+2	77	60	50	56
アジア	スコープ1	-	49	55	47
	スコープ2	-	155	179	170
	スコープ1+2	204	205	234	217
オセアニア	スコープ1	-	9	6	8
	スコープ2	-	4	1	1
	スコープ1+2	19	13	7	9
アフリカ	スコープ1	-	8	0	0
	スコープ2	-	0	0	0
	スコープ1+2	8	8	0	0
計	スコープ1	-	251	259	252
	スコープ2	-	264	214	176
	スコープ1+2	549	515	473	427

※ サントリー食品インターナショナルグループの排出量は427千t-CO₂eです。このうち、海外生産拠点のCO₂以外のGHGおよび海外非生産拠点のCO₂を除いた、スコープ1・2排出量377千t-CO₂e★（スコープ1：203千t-CO₂e★、スコープ2：174千t-CO₂e★）に対して第三者保証を受けています。第三者保証の対象とした拠点は以下の通りです。

国内生産10工場、海外生産38工場、国内非生産拠点（研修センター等間接部門、研究開発拠点、営業拠点）

※ KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。第三者保証の対象となっている数値を★で示しています。

※ GHG排出量の算出係数は下記の通り。

燃料：

（国内）省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律、以下同じ）、温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律、以下同じ）で定められた係数（算定省令改正前の値を採用）

（海外）燃料調達先より入手した係数または省エネ法・温対法で定められた係数（算定省令改正前の値を採用）

電力由来GHG：

（国内）温対法で定められた電力会社別の調整後排出係数

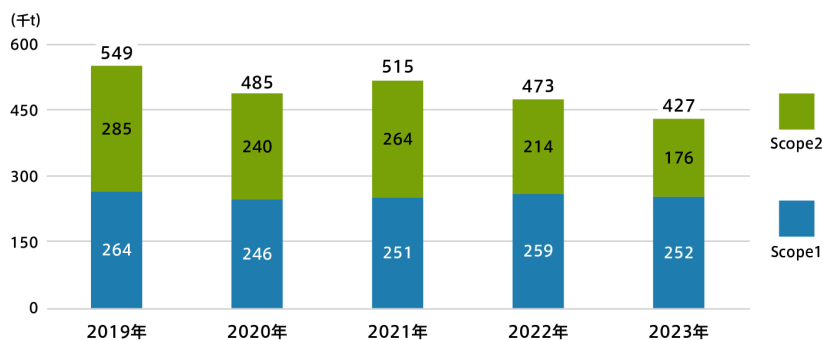
（海外）電力調達先より入手した排出係数を原則とし、入手できない場合は、IEA公表の国別排出係数

CO₂以外のGHG：

（国内10工場）温対法で定められた係数

※ 数値については四捨五入しているため、合計があわない場合があります。

■ サントリー食品インターナショナルのScope1・2排出量経年実績



■ サントリー食品インターナショナルのエネルギー使用量

	2021年	2022年	2023年
エネルギー使用量 (MWh)	1,841,699	1,979,441	1,953,954
うち再生可能エネルギー使用量 (MWh)	179,126	364,358	477,104
エネルギー原単位 (MWh/KL)	0.21	0.20	0.20
電力使用量 (MWh)	-	-	726,752

※再生可能エネルギー使用量および電力使用量については、海外非生産拠点を除いた実績において第三者保証を受けています。

再生可能エネルギー使用量：475,311MWh★、電力使用量：720,933MWh★

※KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。第三者保証の対象となっている数値を★で示しています。

■ サントリー食品インターナショナルのスコープ3排出量

カテゴリ	排出量 (千t-CO ₂ e)	算定方法
1.購入した物品、サービス	3,251★	[原料・包材]サントリー食品インターナショナルグループ(国内・海外)が製造・販売する商品の原料や包装資材の購買/使用重量に、排出係数を乗じて算出しています。カテゴリ1のGHG排出量の41%は、原料と包装資材を供給するサプライヤーのGHG排出量から算出した排出係数を用いて算定しています。なお、当期において、アジア・オセアニアの包装資材の排出係数出典元を主に従来のDefraからIDEA Ver3.3に変更しています。 [製造委託先]サントリー食品インターナショナルグループ(国内)、Suntory Beverage & Food Europe、Suntory Beverage & Food Oceaniaが製造を委託した製品の生産量に排出係数を乗じて算出しています。
2.資本財	172★	サントリー食品インターナショナルグループの設備投資額(土地を除く)に、排出係数を乗じて算出しています。
3.スコープ1、2に含まれない燃料およびエネルギー関連活動	85	サントリー食品インターナショナルグループのエネルギー使用量に、排出係数を乗じて算出しています。
4.輸送・流通(上流)	221	サントリー食品インターナショナルグループのエネルギー使用量に、当該エネルギー資源の採集、生産及び輸送にかかる排出係数を乗じて算出しています。
5.事業から発生する廃棄物	6	サントリー食品インターナショナルグループの廃棄物重量に、排出係数を乗じて算出しています。
6.出張	10	サントリー食品インターナショナルグループの出張費に、排出係数を乗じて算出しています。
7.従業員の通勤	25	サントリー食品インターナショナルグループの通勤費に、排出係数を乗じて算出しています。
8.リース資産(上流)	23	サントリー食品インターナショナルグループの他社所有配送センターにおける保管数量と面積に、排出係数を乗じて算出しています。
9.輸送・流通(下流)	233	サントリー食品インターナショナルグループの輸送量(トンキロ)に、排出係数を乗じて算出しています。
10.販売した商品の加工	-	該当なし
11.販売した商品の使用	89	サントリー食品インターナショナルグループの販売量に、排出係数を乗じて算出しています。
12.販売した商品の廃棄	405★	サントリー食品インターナショナルグループの包装資材の購買/使用重量に、廃棄/リサイクルの輸送及び処理に係る排出係数を乗じて算出しています。
13.リース資産(下流)	313★	サントリー食品インターナショナルグループ(国内)の賃貸機材の電力使用量に、排出係数を乗じて算出しています。
14.フランチャイズ	9	サントリー食品インターナショナルグループが主宰のフランチャイズ加盟企業・店舗における排出量を算出しています。
15.投資	-	該当なし
合計	4,843	

※ サントリー食品インターナショナルグループ(国内・海外)が対象です。海外グループ会社の一部は、国内の排出係数や生産量を用いて推計しています。

※ 国内の排出係数は主に以下のデータベースによっています。

a) 「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver3.3)」

b) 「LCIデータベース IDEA version 3.3」(国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門社会とLCA研究グループ一般社団法人サステナブル経営推進機構)

※ KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者保証を受けています。第三者保証の対象となっている数値を★で示しています。

プラスチック

■ サントリー食品インターナショナルの目標と実績

2030年 目標

- ペットボトルの素材を、リサイクル素材と植物由来素材に100%切り替え、化石由来原料の新規使用ゼロを実現する

2023年 実績

- リサイクル素材・植物由来素材使用のペットボトルの割合：33%

(内) 日本 53%*
(内) 海外 18%

※ 100%サステナブルボトルの本数比率

ご案内

詳しくは当社サイトをご覧ください。

サステナビリティサイト

suntory.jp/sbf_sustainability/

サステナビリティ データ一覧

suntory.jp/sbf_sustainability_data/

